

花づな



花づなは、男女が互いを尊重し
共に支え合う男女共同参画社会の実現をめざして
皆さんと一緒に考えるための冊子です。

▲できる男の料理講座の様子

今日の女性問題、男性問題、固定的性別役割分担の問題について考えていただき
誰もが人として尊重され、いきいきと生活できる社会の実現をめざしましょう。

主な内容

- ◆女性と防災……………2
- ◆ワクワク取材
「できる男の料理講座」……………6
- ◆女性会館事業のご案内……………8



女性と防災

女性も積極的に関わる時代……それは、女性自身のために

地震、火災、風水害…万一の時、その被害を最小限に食い止めるための防災対策そして被災後の復旧対策は、誰が、何時、どのように考え、行動していくのでしょうか。とりわけ地震に関しては、東海地震、東南海地震がいつ来てもおかしくないといわれ様々に対策が講じられていますが、そこに女性はどのように関わっているのでしょうか。かつては、防災、災害復旧という分野は主として男性が担ってきましたが、阪神淡路大震災、新潟沖地震という二つの大きな災害の教訓から、防災にも被災後の活動にも女性が関わることが重要であることが認識されてきています。私たち一般に暮らす女性が防災とどう関わっていけるのか、現在防災に関わっている女性たちを通して考えてみたいと思います。

女性防火クラブ

～女性防火クラブ連絡協議会 会長、副会長さんに聞きました～

女性防火クラブについて知るために、豊橋女性防火クラブ連絡協議会の会長さん、副会長さんに、消防本部予防課にてお話を伺いました。



会長
尾川明佳美さん

女性防火クラブは、家庭防火の観点から、日頃家庭内で火気を取り扱う機会の多い女性が集まり、家庭防火の推進を第一の目的として活動しています。また、火災予防の知識や初期消火技術の習得を行うほか、地域住民に対する防火啓発も活動の一つとしています。

また、防火のみにとどまらず地域によっては、救命講習や炊き出し訓練を行います。地震などの災害発生時には、初期対応時の一翼を担っており、現在、豊橋市では、52小学校区のうち42校区で組織されています。

昨年10月25日に横浜市で開催された「第18回全国女性消防操法大会」には、豊橋市の女性防火クラブ員が愛知県を代表して出場するなど、その活動は家庭防火以外にも広がっています。



▲防災訓練



副会長
神藤あや子さん

豊橋市女性防火クラブ連絡協議会は、防火に関する活動を積極的に行うことを目的として、各校区の女性防火クラブの代表者で結成されています。

連絡協議会の課題ですが、まだ市内の10小学校区に女性防火クラブがありません。全校区で結成されれば、万一の大災害時にも大きな力となることができると思います。

もう一つの課題は、女性防火クラブの活動は、校区によって会員数に差があり、活動が様々であることです。現在男性のみで行われている消火活動にも、訓練を積んで参加できるようにしていきたいと思っています。

女性防火クラブに期待すること

皆さん「女性防火クラブ」という名前を最近良く耳にしませんか？しかし、女性防火クラブはどんな構成団体で何を行っているのか判らないという方もいると思います。

女性防火クラブは、家庭防火の推進を主目的とし地域（小学校校区単位）で結成され自宅から火災を出さないよう火災予防に関する知識を深め、地域内での情報交換や住宅防火対策の実践活動を行っています。

また、豊橋市女性防火クラブ連絡協議会は、各校区の女性防火クラブ代表者が集まり、意見交換を行うとともに、市が主催する各種行事にも参加し、防火に関する活動を積極的に行っています。

校区により女性防火クラブ員の人数も異なり、活動内容には温度差があるものの、

この地域で危惧されている東海地震や東南海地震では、多くの被害が発生すると予測されており、災害発生時には防火・防災について日頃の研修や訓練で培った知識・技術を活かしていただき、地域の一助となり災害に強いまちづくりの担い手として期待しています。



豊橋市消防本部予防課長補佐 中西重勝

女性消防士

～中消防署で女性消防士に聞きました～

豊橋市では、現在8名の女性消防士が活躍されていますが、今回は、豊橋市で初の女性消防士として平成13年に採用された太田淳和（おおたじゅんな）さんと平成18年採用の大谷光（おおたひかる）さん、男性消防士の佐々木英樹さんにお話を伺いました。

太田さん、大谷さんは共に救急救命士の資格を持ち、救急隊員として活躍されています。このインタビューを行うに当たっては、「救急出動を優先しますのでよろしく。」という前置きがありましたが、インタビューを始めて間もなく、出動に次ぐ出動となったため、太田さんと当初同席していただいた伊藤さんは冒頭のみのお話となりました。

インタビュー

消防士を志した思い、希望が叶った時の思いは？

大谷 救急車に乗って、苦しんでいる人を助けに行きたい、という思いからです。でも、最初は母から反対されました。父は何も言いませんでした。

太田 消防士に対する憧れ、救急車に乗って現場に駆けつけたい、という思いがありました。



▲左から大谷さん、太田さん、伊藤さん

1期生として、新しく何にでもチャレンジしていきたいと思いました。

消防士として働きはじめて、現実とは？

太田 現実には、自分自身戸惑いましたが、男性側も戸惑っていたようです。当時はトイレ、更衣室、仮眠室は女性用があったのですが、お風呂は女性用がなく、時間差で使用していました。

仕事をする上での気持ちは、男性も女性も同じだと思います。女性だから男性に負けたくない、という気持ちはありましたが、あまり意識せず素直に訓練や仕事ことができました。

女性を受け入れるにあたって、男性としてはいかがでしたか？

佐々木 普段配慮しなくてはいけない事は生活上の事だけで、訓練も仕事も男性とほぼ同じです。

現場に出る時は、防火服や空気呼吸器など約20キロを身に着けるわけですから、体力練成は欠かせません。二人も普段からお互いをおんぶして階段を昇ったり…と自主トレーニングに励んでいます。また、消防士の世界は階級社会ですので、お茶汲みや掃除を女性だけに押し付ける事はありません。今までも男性だけでやってきたわけですから。

初めて現場に出られた時はいかがでしたか？

大谷 初めての出勤は平成18年6月頃、国道1号線での事故現場でした。国道での事故は救助と二次災害防止のため、消防車も出動します。その消防車に乗りました。事故現場で人が倒れているのを目の当たりにし、動転して何をして良いのか分からない状態でした。サイレンの音にも緊張を覚え、隊長の指示通りに動くのが精一杯だったのを覚えています。

どんな時にやりがいを感じますか？

大谷 救急の場で「ありがとうございました」と言っていたいた時にはく役に立てたのだという思いが込み上げてきます。

佐々木 市によっては女性を現場に出さないところもありますが、救急の現場では女性消防士の方がやさしくて、よく気が付くなあ、と思います。病气や怪我をされている方、また、付き添いの方への言葉かけも重要な仕事の一つです。搬送者が女性の場合は私たちとしても、男性がケアするより、女性消防士がいる方が非常に助かります。

大谷 そうですね。私自身、中学生の時に救急車で運ばれた事があるのですが、男性3人に囲まれるよりは一人でも女性がいたら・・・と思いました。

男性側から見た女性消防士について、お聞かせ下さい

佐々木 本当によくがんばっていると思います。精神的にも強いし、男性の職場にチャレンジしている、という事は、男性よりも志が高いのだと思います。なかなか出来ない事だと思っています。

これから消防士を目指している女性へのメッセージをお願いします



▲左から佐々木さん、大谷さん

大谷 消防士を目指している方は、すでにそれなりの覚悟をもって臨んでおられると思います。消防士の世界は規律が厳しく、階級社会ですが、職場は楽しく、仕事にはやりがいを感じています。

インタビューを終えて

インタビューの間中、礼儀正しく、爽やかに、笑顔で、答えてくださいました。まず一番に感銘を受けたのは、大谷さんに一期生の太田さんの印象を聞くと、「女性として尊敬します！」の一言で答えてくれたことです。太田さん、大谷さんのそれぞれの表情、言葉の一つひとつから、仕事への熱意が力強く伝わって来ました。かつて男性の職場であったところへ自らの意思でチャレンジし、その職業につき、自他に甘えることなく日々訓練を積み、業務に励む意気込みが、ひしひしと伝わってきました。

インタビューをした私たちの世代では考えもしなかった女性が消防士になること。時代が変わったというより、現代の若者が、チャレンジする意欲が高いこと、なりたい目標に向かって努力していることが伺えました。親世代は、若者を信じ、若者の未来へエールを送らなければと思いました。そして、男女という性別によって職業などの役割を決め付けしないで、未来の社会を担う若者が、なりたい目標に向かってチャレンジできる環境が創造されなければならないと思いました。

女性防火クラブ、女性消防士を取材して改めてこの特集のテーマである「女性と防災」について考えさせられました。防災、万一の災害による被害を最小限に食い止めるためには、日頃の私たち市民の心がけが最も大切であることを再認識しました。

地域で女性ができること

～普段の生活で、
私たちができることを考えてみよう～

長い間男性の役割とされてきた防災や災害対策の分野においても、阪神淡路大震災を機に女性も関わるが必要と認識されてきました。市内で活動する女性団体が組織される豊橋女性団体連絡会においても学習のテーマとして取り上げられ、19年度の豊橋市と設楽町との女性団体交流事業では「防災に関するワークショップ」が行われ、地域に暮らす女性の視点で様々な意見交換がなされました。

「女性が防災について、自ら考え、発言できるとても良い機会になりました。」と話された当日のワークショップを担当された方にその模様を教えてくださいました。

豊橋市・設楽町女性交流ワークショップ「防災」から

「女性と防災」をテーマとするワークショップは、さらに「避難所でできること」「女性防火クラブ」「災害弱者の救出」の3つのテーマで意見交換が行われ、災害が起きた時の行政の対応の理解と、地域住民として何ができるか等、活発に話し合われました。テーマごとに主な発言をまとめました。

①避難所でできること

- 家族の安否を知る方法を、家族で二重三重に考えておく。
- 災害が起き避難所生活が始まっても、日常生活は女性・子ども・高齢者が中心となり、女性の果たすべき役割は大きい。
- 日ごろから近所との付き合い、友達作りなどのコミュニケーションが大切。
- 地域の特性を踏まえた避難所のあり方を、住民主体で考えていく機会がもたれることが重要。

②女性防火クラブ

- 日ごろ家庭にいることの多い女性が防火・防災に果たす役割は非常に大きい。
- 地域によって、防火クラブが未組織やクラブ員の人数が少ない現状がある。市内全域の防火・防災意識を高めるためには、全校区に防火クラブが組織され充実されることが望まれる。

- 災害を実感することは難しいが、いつもの備えが肝心、防火クラブのような活動に参加しておく。

③災害弱者の救出

- 個人情報の取扱いが壁になり、どこにどのような方が住んでいるかを把握することが困難になっている。
- 災害時の行政の対応には限界があり、地域住民同士助け合う関係づくりが、常日頃から必要である。
- 大災害でライフラインが止まっている場合、電話も使えないので、近所同士が声を掛け合うという心遣いが大切。



◀ 交流会報告書

どのテーマも活発に意見交換が行われ、設楽町と豊橋市それぞれの課題を共有し、万一の災害時には相互に助け合える雰囲気も生まれました。また、このワークショップが自分たちの家庭や地域での防災について考えるきっかけとなって、より地域に密着した活動ができるととても良いと思います。

編集委員の一言

被災後、一定期間を経ると、家計の担い手である多くの男性が仕事へ復帰していくため、日中の避難所は、多くは女性と子ども、高齢者という状態になるようです。

子ども、高齢者という弱者を守り、自らを守るために、女性が考えなければならないことはたくさんあります。

いつ起こるかわからない地震や火事などの備えを普段の生活の中で、行うことが重要です。

マモル&エツコの ワクワク取材

「できる男の料理講座」を取材しました

豊橋市女性会館で行われている「できる男の料理講座」を花づな編集委員が取材しました。

12月1日(土)、午前10時。教室をのぞくと、男性だけでなく、女性や子どもの姿も見えます。取材を行った日は、講座の最終日で、お父さんの作った料理を家族に振舞おうという日でした。

この日の料理のテーマは、「年末年始のおもてなし料理」で、メニューは「ローストビーフ」「野菜スープ」「ミニ押し寿司」「さつまいもの栗茶巾しほり」と、初心者向けにしてはとても手の込んだ料理です。

講師の説明を真剣に聞いた後、いよいよ調理の始まりです。講座最後の回ということもあって、受講者の皆さんも、堂に入った手つきで包丁を握っています。招待された家族の皆さんもいつの間にか手伝い始め、共同作業がとてもほほえましいものでした。

着々と作業が進み、いよいよ料理の完成です。ローストビーフのとてもおいしそうな香りがします。なんとソースも手づくりです。ミニ押し寿司は空いた牛乳パックを使い、ご飯、具を詰めて、きれいに飾ります。デザートはさつまいも栗茶巾もとてもおいしそうです。

料理が並んでいるところへお邪魔して、セミナー受講者の皆さんにいくつか質問させていただきました。

Q このセミナーに参加したきっかけは？

- 仲間づくり
- 定年後の趣味
- 定年後、夫婦平等の立場から料理を覚えたかった
- 日常生活に活用したくて
- 男の自立を目的として
- 妻への感謝の気持ちを少しでも表現するため

Q 料理講座を体験した感想は？

- 料理の段取りが理解できた
- 料理に関心を持つようになった
- 台所に立つようになった



▲できる男の料理講座 実習風景



▲できる男の料理講座 会食風景

Q セミナー参加前と後で変化はありましたか？

- 定期的に夕食を作るようになった
- 自分でツマミを作るようになった
- 台所に立つ機会が多くなった
- 覚えた料理を作って、家族に喜ばれた



受講者の皆さんのように意識し、実際に行動を起こすことができれば、豊かな人生の幅は広がる、そんな風に思いました。誰もが自分の目標に向かっていきいきと暮らせる社会の実現に向けて、第一歩を踏み出す勇気が必要ですね。

内閣府の男女共同参画白書には、「妻の就業の有無にかかわらず夫が家事や育児、介護などにかかる時間は妻と比べて著しく短い。男性は共働きか否かで生活実態はほぼ変わらないものの、女性は共働きの場合は仕事をしながら家事も育児も介護も担い、余暇時間が少なくなっている。」という記述があります。

団塊世代の大量退職という現実が目前にあります。多くの男性の活躍の場が「会社社会」から、「家庭・地域」へと変わります。その時のために、できることから少しずつ意識や行動様式を変えてみてはどうでしょうか。

グループが できました

19年度の「できる男の料理講座」受講生の有志で、グループ「ミナトキッチンパパ」が立ち上がりました。豊橋市女性会館を活動の拠点に、レベルアップした料理にチャレンジしていくとのこと。この会の会長を務められる中村さんからコメントをいただきました。



会長：中村さん

「男の料理講座」受講の動機は、「妻に先立たれた時コンビニでパック飯を買っている男になりたくない、リタイアした今、必ずマスターしておくべきアイテム」と考えたからです。現在では、料理レシピも理解でき、妻から食器収納など台所のルールも習得し、講座復習のため料理を息子一家と楽しんでます。孫にほめられるとうれしいですね。料理サークル運営の基本は“楽しく”をモットーとしています。定期活動以外のグループ親睦行事なども時々実施しながら活動の輪をひろげて行きたいと考えてます。

こうした活動が豊橋中に広がっていけば、男女共同参画社会の考え方が理解され、市民の間にしっかりと浸透していこうと思います。

女性会館図書室のご案内

女性会館には、男女共同参画や女性に関する図書をはじめとした図書室があり、1人1回につき3冊まで2週間以内の期限内で、図書の貸し出しを行っています。現在の利用登録者数は、2,237人、内男性は125人です。男性の皆さん、どしどし利用ください。

◆今回の特集テーマ「女性と防災」に関する図書



女たちが語る 阪神・淡路大震災

ウィメンズネット・こうべ：編
ウィメンズネット・こうべ



ママが子どもを地震から 守るための本

ママが地震災害から子どもを守る
プロジェクト：著
メイツ出版



地震イツモノート

地震イツモ
プロジェクト：編
渥美公秀：監修
寄藤文平：絵
木楽舎



巨大地震の日

—命を守るための
本当のこと
高嶋哲夫
集英社新書

女性会館セミナーのご案内

女性会館のセミナーは託児付で子育て中のお母さんも安心です。

我が家のマネープラン&ママの再チャレンジ応援セミナー

我が家の資金計画を考え、働く選択、職業の選択を考えます。

開催日 5月22日～6月12日(毎週木曜日 全4回)

内容 1日目 我が家のマネープランを考えよう

開催時間 午前10時～11時30分

2日目 「わたし」にあった就職デザイン

講師 菅田芳恵
(ファイナンシャルプランナー、キャリアアドバイザー)

3日目 いろいろな働き方のメリット、デメリット

定員 30名

4日目 自分の魅力を再発見、自己アピールで差をつける！

対象 女性

締め切り 5月7日まで

このほかにも、様々なセミナーを開催します。詳細は広報とよはし、女性会館ホームページ (<http://www.city.toyohashi.aichi.jp/jyosei/>) をご覧ください。ホームページからセミナーへの参加申込みも可能です。



女性相談事業のご案内

女性が抱える悩みや不安は様々です。家庭や職場などの人権を侵害する暴力に対する悩みまで、あなたの気持ちを大切に受け止め、あなたらしい生き方への第一歩を踏み出すお手伝いをします。

女性のための電話悩みごと相談

- ◎毎週月～土曜日(祝日・休館日は除く)
- ◎午前9時～午後3時 *30分*
- ◎相談電話番号 0532-33-2098

専門相談(女性の専門家による面接相談)

- ◎心の相談(年24回)
- ◎法律相談(年6回)
- ◎専門相談は予約制です。
予約電話 0532-33-2822

女性のための悩みごと面接相談(電話相談も可)

- ◎毎月第3水曜日
- ◎午前10時～午後4時

日程等の詳細は、広報とよはし、女性会館ホームページ (<http://www.city.toyohashi.aichi.jp/jyosei/>) でお知らせします。

編集後記

防災の特集を組みました。皆さまのご家庭や地域の災害に対する備えをもう一度チェックしてみてください。

<編集委員>

石川 守、加藤陽子、
鈴木晴子、寺島悦子、
戸崎史子、戸田恵子、
杉浦寿実

とよはし男女共生だより第30号
発行年月/平成20年3月
発行/豊橋市(豊橋市女性会館)
〒441-8075 豊橋市神野ふ頭町3-22
電話 0532-33-2800
FAX 0532-33-2810

